

# 山行報告書

作成 2012年5月25日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	高落葉山(1564m) & 縄ヶ池 [越中]	目的[方法]	白山を眺める静かな山旅
期間	2012年5月12日(土)	形態	日帰りハイキング(山麓泊)
参加人数	2人		

## 行動記録:

5/11(金) 快晴,弱風,15 @岡崎; 霧雨,無風,- @城端SA

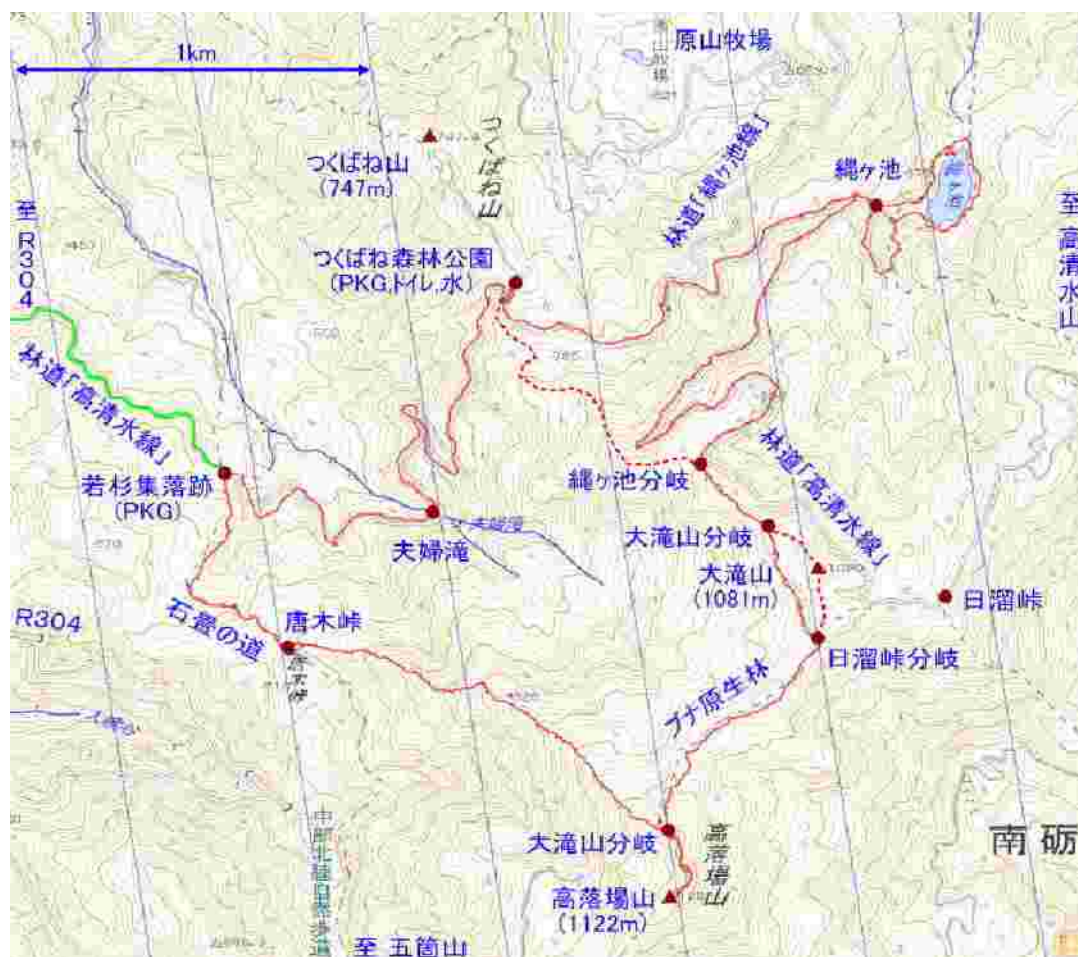
K.H宅(1952) =0:28= FM(2020,2027) =0:03= K.M宅(2030,2035) =0:03= K.Y宅(2038,2040) =0:13= 豊田松平IC(2053) =0:47= 美濃JCT(2140) =0:40= ひるがの高原SA(2220,2225) =0:55= 城端SA(2320) TS0

就寝(23:50)

5/12(土) 曇り,無風,11 @城端SA; 曇り時々雨,微風,10 @若杉集落跡; 曇り,弱風,4 @高落葉山  
起床(5:00)

TS0(600) =0:05= 福光IC(605) =0:10= 林道「高清水線」ゲート(615) =0:15= 若杉集落跡P(630,655) -0:30= 唐木峠(725) -1:17= 大滝山分岐(842) -0:06= 高落葉山(848,852) -0:14= 大滝山分岐(906,910) -0:28= 日溜峠分岐(938) -0:22= 縄ヶ池分岐(1000) =0:42= 縄ヶ池(1042,1126) -0:18= 林道「縄ヶ池線」分岐(1144) -0:11= つくばね森林公園(1155,1203) -0:27= 夫婦滝(1230) -0:13= 若杉集落跡P(1243,1315) =0:10= 林道「高清水線」ゲート(1325) =0:23= 法林寺温泉(1348,1505) =0:30= スーパー「モモサカプラザ」(1535,1555) =0:35= 西尾平P(1630) TS1  
就寝(20:30)

## 概念図:



## アプローチ:

- ETC 料金[休割]
- 豊田松平 ~ 福光(212.2km) : ¥5,450 [ ¥2,750 ]
- コンビニ
- ヤマザキデパートストアー福光インター店 : 0763-52-4551
- ローソン城端町野田店 : 0763-52-4551
- 駐車場
- 若杉集落跡 : 10台, トイレなし, 水場なし, 休憩舎なし
- トイレ
- つくばね森林公園

- 温泉
- 法林寺温泉 : ¥500, 9:30 ~ 21:00, 元旦休業
- 蕎麦
- 蕎麦「つくだ」(金沢市吉原町カ8-1) : 076-258-1055  
11:00 ~ 17:00, 金曜日休業
- 食品スーパー
- モモサカプラザ(金沢市百坂町二25) : 076-257-3510
- 宿泊地
- 西尾平P : あずま屋, 水洗トイレあり, 給水施設なし

日誌：

福光工を降りて左折、R304を五箇山(戻る方向)に走る。縄ヶ池の案内板で鋭角に左折して林道「高清水線」に入る。ゲートにはロープが張られ「通行止」となっている。事前に市役所に問合せ、失婦滝までは通行できることを確認しているのでロープを外して林道に入る。

高清水線は舗装された林道で安心して走れるが、雪融け後の落石や木枝が散らばっている箇所もあるので注意して走る。

記念碑が建つ「若杉集落跡」には10台ほど止められる駐車場がある。案内板とベンチが2基あるが、トイレ、休憩舎はない。水は途中の「岩割の命水」で得られる。

時折小雨が降ったりする天気だが、昼から回復する予報なのでためらわず出発する。

高落葉山への登山道は、五箇山に抜ける「中部北陸自然歩道」の「石畳の道」から始まる。苔むした石畳は雨に濡れて情緒があるが滑りやすい。苔むした石のベンチがある「唐木峠」で「中部北陸自然歩道」から分岐し、左手尾根に取り付き、雨に濡れたササが鬱陶しいのでカッパズボンを着用する。

流石に湿った雪の北陸の山、雪融け進行中の登山道には樹木の倒れ込みが多く迂回したり、乗り越えたり、潜ったりと忙しい。

傾斜が緩み、左から尾根が合流して、暫く雪道を歩くと切り開かれた高落葉山の山頂に出る。暫く前から雨が曇りに変わり、風も吹いて寒い。登山口で11あつた気温は4まで下がっている。完全に雲の中にいるので、全く展望は得られない。登頂記念の写真を撮って木立の中まで戻り休憩をとる。どうも天気のリcoveryが遅いようだ。濡れたままでじっとしていると寒いのでとうとうカッパの上も着る羽目になった。冷たい飲み物もフルーツを用意してあるが今日は不要だ。

縄ヶ池に向かう失滝山分岐には道標が建っているが、登山道は雪に覆われておりトレースも無い。しばらく磁石で方向を定めて歩き右にカーブする尾根に乗る。少し降ると雪が途切れ登山道が見つかった。この先も断続的に残雪が登山道を覆っているが迷うようなところは無い。

高く伸びたブナの巨大樹が林立する森は、柔らかな新緑の空間を創っている。雲の中で幻想的な世界が広がる。

失滝山の手前に「日溜峠分岐」があり、失滝山を迂回する左手のルートを選ぶ。トラバース気味に進むと再び失滝山からのルートと合流し、暫く道なりに下っていくと林道「高清水線」に出る。

ここも高落葉山の登山口の一つで駐車余地があるが今は残雪で覆われている。漸くこの手前まで除雪が進んできている。雪面から地面に降りて縄ヶ池まで除雪進行中の林道「雪の大谷」(雪の壁は1m程度)を歩く。

縄ヶ池を時計回りで周回する。相変わらず雲の中を彷徨う状況で、池の全体像、対岸まで見渡せない。我々以外に人も無く、幻想的な世界を独り占めする。やがて、ミズバショウの群生地に着く。木道が整備されており、瑞々しいミズバショウを近くで観賞できる。

林道「高清水線」に戻り、つばね森林公園に立ち寄り、登山口「若杉集落跡」に戻る。今回のルートの場合、林道歩きの時間は長いけれど終始「降り」なので楽である。

なお、途中の「失婦滝」は豊富な水量で二条懸が豪快な水音を轟かせていた。

感想：

生憎の天気で白山展望は得られず残念でした。しかし、霧に包まれたブナの巨大樹の森や雪融けしたばかりの縄ヶ池は、厳かで神秘的でした。